

夜回り

# 山田先生

西陵商ラグビー部元監督

▶9



▼山田耕二(やまだ・こうじ) 名古屋市中区生まれの73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県赤羽市で老人ホームの理事長を務める。

「あいさつ競争」実を結ぶ「うちの子をぜひ西陵商に」

指導方針が校内で反発を招いただけでなく、正門の近くで練持たせると、生徒たちは面白くもなかった。一つが、頭習するバレー部やバトン部、ダンス部などの主将らに「どに体育館などで活動するバスケットボール部や器械体操部などにも広まり、来校者に対して「西陵商はあいさつ」などと評判になった。「せひ多くのあいさつ」で印象は変わる。ちよつとしたことで自分の社会的価値が大きく変わってくる。高校生活は人生の大きな差を生む3年間。ラグビーや他の部活で身につけた「社会性」は大きな役割を果たすと信じている。

「下手に出て相手を持ち上げ、人間平等の原則の否定で、と批判された。そこで「あいさつ競争」を始めることにした。ラグビー部たちは動かない。ゲーム性をからなかった。

# 校内に響き渡る「うんどうちは」

悲しい事故を防ぐために「やりすぎはない!!」

夜回り

# 山田先生

西陵商ラグビー部元監督

▶10



▼山田耕二(やまだ・こうじ) 名古屋市中区生まれの73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県赤羽市で老人ホームの理事長を務める。

雨が降っても、やりが降りるの死亡生徒数をデータ化した数字がある。2003、07年、08年の統計で、野球0・968人、バスケットボール0・758人、ラグビーは4・030人。高い割合を示すように、常に危険と隣り合わせのスポーツという現実がある。幸いなことに、私は38年間、悲しい事故を防ぐため、ラグビー部の練習を参考にした「一日も欠かさなかったレスラーブリッジ」

# 一日も欠かさなかった「レスラーブリッジ」

剣道「継ぎ足」、柔道「受け身」…何でも応用

# 山田先生



▼山田耕二(やまだ・こうじ) 名古屋市中区生まれの73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県赤羽市で老人ホームの理事長を務める。

校内で不審者のように見られる部活動こそ、何み込む動作をする。ラグビーでは、相手タックルをかわすときに大きくステップを踏む。そこに継ぎ足を敵の攻撃をかわして有利に試合を運ぶことができた。さらには柔道部。練習で「片脚跳び」をやっていた。四つんばいで一列に並ぶ仲間をたたかせるほど、体の小さな選手が多いチームだった。自分たちよりひと回りもた回りも大きな選手がそろった強豪私立に対抗するには、普通のことだけをやっていては、いけないと思つたのだ。

# 他の部活動から取り入れたトレーニング

前回、首を鍛えるブリッジをレスリング部から学んだことを書いた。他の部活動から取り入れたトレーニングはいくつかある。練習の合間に他

柔道の「受け身」も取り入れた。試合中にタックルを受け、手や肘を突いて骨折することがよくある。未然に防ぐために、グラウンドで一斉に受け身を取る練習をさせた。前にも述べたが、うちは全国大会では「軽量商」と陰口をたたかれるほど、体の小さな選手が多いチームだった。自分たちよりひと回りもた回りも大きな選手がそろった強豪私立に対抗するには、普通のことだけをやっていては、いけないと思つたのだ。